災害情報 広く早く

岩手大学内会社と宮古マランツ

防災ラジオ機能拡充　家電起動やスマホ通知

岩手大の学内カンパニー・アノナスライティング（佐藤旭飛社長）と宮古市の電気機器製造業・宮古マランツ（長崎一幸社長）は防災ラジオの機能を拡充し、地域の災害警報を広範囲に発信する防災システムを開発している。6、7の両日は同市で実証実験を実施。ラジオに通信機器を取り付けてテレビなど家電を起動させ、緊急情報を伝えて早期避難につなげる。大規模災害が頻発する中で全国各地の自治体が防災ラジオ配備を進めており、岩手発の「命を守る通信技術」の普及を図っていく。

防災ラジオは、自治体からの緊急情報を受信すると自動的に地元FMラジオ局の放送を流す。両社が開発したシステムは、ラジオに通信機器を設置することで機能を格段に向上させる。

避難指示などの情報を感知するとラジオに取り付けられた親機が無線信号を発信。子機が接続されたテレビや照明などの家電を自動起動させ、いち早く緊急事態を知らせる。▽子機だけで半径3㌔の無線信号を受信し、広範囲に中継する▽1万円以下で設置可能▽スマートスピーカー制御装置との連動で音声ガイドやスマホへの通知ができる―など多くのメリットがある。

6日は同市赤前の宮古商工高工業校舎に機器を設置し、岩手大大学院理工学専攻1年でアノナスライティング社長を務める佐藤さん（23）ら学生が同校の1、3年生計40人にシステムの概要を説明。試験電波を飛ばして機器が反応するかを試した。

同校電気電子科3年の藤村玄龍さんは「普段学んでいる電子回路などの知識が防災に役立てられることを知った。将来は自分も古里のために貢献したい」と決意を新たにした。

通信機器の製造は宮古マランツが担当。防災ラジオは現時点で10種類程度あるが、盛岡市や宮古市がそれぞれ導入したラジオに対応する機器は開発済みで、将来的には全国の自治体で活用してもらえるよう全種類の製品開発を進める。

7日はみやこハーバーラジオによる全国瞬時警報システム（Jアラート）の電波で実証実験を行う。今後は自治体と連携して公共施設への試験配備を行い、製品の完成度を高めた上で現場への本格導入を図る。佐藤さんは「情報通信技術を活用して災害から人々を守りたい。スマートスピーカーなどの通信機器との連動も進め、さらに機能を拡充させたい」と話す。

ブラックホール研究に物理学賞

ノーベル賞　欧米3氏へ授与

1965年に示した。

ゲンツェル氏とゲズ氏はそれぞれの研究チームを率いシュタイン自身も否定的だった。

日本も参加する国際協力プロジェクト「イベント・ホライズン・テレスコープ（EHT）」が世界で初めて、地球から5500万光年離れた銀河のブラックホール

「推薦通」政府18

政府は6日、日本学術会議が推薦した会員候補6人の任命を拒否した問題を巡り、首相が学術会議の推薦通りに任命する義務はなく、首相に監督権があると確認する2018年11月の内部文書を公表した。秘密裏に対応を変更する形となったが、解釈変更ではないので非公表としたと主張。1983年の国会答弁は首相の任命権について「推薦していただいた者は拒否はしない。形だけの任命をし

台数
数
6 (—)
0 (▲34.6)
2 (▲1.0)
9 (22.9)
7 (—)
7 (▲45.6)

2020年（令和2年）10月7日 水曜日
発行所 株式会社 岩手日報社
盛岡市内丸3番7号
郵便番号 020-8622
©岩手日報社2020
■紙面へのご意見・ご質問、提供は…編集、NIE・読者（平日9～17
▶電　話 019（654）120
▶ファクス 019（653）820
dokusya@iwate-np.co
■岩手日報ホームページ
https://www.iwate-np.co

千田工務店
㈱千田工務店 北上市

今日の紙面

一歩一
15 巨人・菅
2 トランプ
4 ウェブで
6 コロナ拡
14 ロッテ新
16 17 Gen
24 関電金品
25 冬の成人
9 声　11 ラジオ欄
14 15 スポーツ　18 盛
20 沿岸　22 慶弔